

能越自動車道関連 埋蔵文化財包蔵地調査報告

NEJ-19 (上久津呂中屋遺跡)
板屋谷内 B 古墳群
板屋谷内 C 古墳群

2004年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

能越自動車道（一般国道470号）は、富山県西部と石川県能登半島地域の高速交通体系の確立や沿線地域の活性化を目指し、北陸自動車道小矢部砺波JCTから高岡市、氷見市を通り、石川県輪島市に至る路線として計画されました。

当調査事務所では、この能越自動車道建設設計画に伴い、平成4年度から発掘調査及び遺物整理の事業を実施しております。今年度までに五社遺跡、開墾大滝遺跡、地崎遺跡（小矢部市）、石名田木舟遺跡（小矢部市・福岡町）、蓑島遺跡、江尻遺跡（福岡町）、下老子笠川遺跡（福岡町・高岡市）、近世北陸道遺跡、手洗野赤浦遺跡、岩坪岡田島遺跡、堂前遺跡（高岡市）、神明北遺跡、中尾新保谷内遺跡、中尾茅戸遺跡、中谷内遺跡、惣領野際遺跡、惣領浦之前遺跡（氷見市）の発掘を行いました。

本書は、能越自動車道高岡北IC～氷見IC間に所在するNEJ-19（氷見市上久津呂）及び、板屋谷内B古墳群・板屋谷内C古墳群（高岡市五十里）における埋蔵文化財包蔵地の範囲や遺存状態を把握するために実施した包蔵地確認調査の結果をまとめたものです。その結果、NEJ-19（上久津呂中屋遺跡）では縄文時代・古代・中世の集落跡を確認しました。また、板屋谷内B古墳群・板屋谷内C古墳群では、新たな円墳の確認と珠紋鏡の発見など新しい知見を得ることができました。これら調査の成果が、今後の遺跡調査や研究等の一助となれば幸いです。

最後に、今回の調査にあたって格別の御協力と御配慮を頂いた関係各位に深く感謝申し上げます。

平成16年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所長 桃野 真晃

例　　言

- 1 本書は平成15年度に氷見市上久津呂地内、高岡市五十里地内の能越自動車道建設予定地で実施した埋蔵文化財包蔵地の調査報告書である。
- 2 調査は富山県教育委員会の決定に基づき、財団法人富山県文化振興財団が国土交通省からの委託を受けて実施した。
- 3 調査は財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施し、調査第一課長 狩野 瞳が総括した。調査員は次の通りである。
- N E J -19…調査員主任 菅田 薫・島田 美佐子、文化財保護主事 中野 由紀子・内田 亜紀子・野口 雅美
田中 昌樹・植木 久美子・森田 利枝
板屋谷内B古墳群・板屋谷内C古墳群…調査員主任 菅田 薫、文化財保護主事 杉山 大晋
- 4 発掘調査・資料整理・本書の作成にあたっては、下記の方々から御教示を頂いた。記して深甚なる謝意を表したい。
(敬称略・五十音順)
池野 正男 西井 龍儀
- 5 本書の編集は野口が担当した。執筆分担については各文末に記した。
- 6 トレースは、野口・杉山が行った。
- 7 遺物の写真撮影は、調査第一課長 狩野 瞳が行った。
- 8 出土遺物及び記録資料は、当埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。
- 9 トレンチ一覧表には各層から出土した遺物の略号を記し、土層自体を検出していない場合はーで示した。出土遺物の略号は次の通りである。
- 縄土=縄文土器 打斧=打製石斧 磨斧=磨製石斧 弥生=弥生土器 墳土=古墳時代の土師器 墳須=古墳時代の須恵器 土師=古代の土師器 須恵=古代の須恵器 中土=中世土師器 越瀬=越中瀬戸 伊万=伊万里

目　　次

序

例言・目次

I 位置と環境	1
1 位置と地形	1
2 周辺の遺跡	1
II 調査の経緯	3
III 調査の概要	4
1 N E J -19 (上久津呂中屋遺跡)	4
2 板屋谷内B古墳群・板屋谷内C古墳群	10
IV 小括	14
引用参考文献	16

図・表目次

第1図 調査地の位置	1
第2図 能越自動車道路線内の埋蔵文化財包蔵地と周辺の遺跡	2
第1表 既往の調査一覧	3
第2表 N E J -19トレンチ一覧	6
第3図 N E J -19トレンチ位置図(1)	7
第4図 N E J -19トレンチ位置図(2)	8
第5図 N E J -19トレンチ位置図(3)	9
第3表 板屋谷内B・C古墳群トレンチ一覧	10
第6図 板屋谷内B・C古墳群トレンチ位置図	11
第7図 板屋谷内B・C古墳群1・2トレンチ平面図・断面図	12
第8図 板屋谷内B・C古墳群7・8・9トレンチ平面図・断面図	12
第9図 板屋谷内B・C古墳群9トレンチ平面図・断面図	13
第10図 板屋谷内B・C古墳群11トレンチ平面図・断面図	13
第11図 板屋谷内B・C古墳群12トレンチ平面図・断面図	13
第12図 板屋谷内B・C古墳群遺物実測図	13
第13図 今回の調査により新たに確認された遺跡の位置	15

写真図版

図版1 N E J -19航空写真	17	図版5 板屋谷内B・C古墳群航空写真	21
図版2 N E J -19	18	図版6 板屋谷内B古墳群	22
図版3 N E J -19出土遺物	19	図版7 板屋谷内C古墳群	23
図版4 N E J -19出土遺物	20	図版8 板屋谷内B・C古墳群出土遺物	24

I 位置と環境

1 位置と地形（第1図）

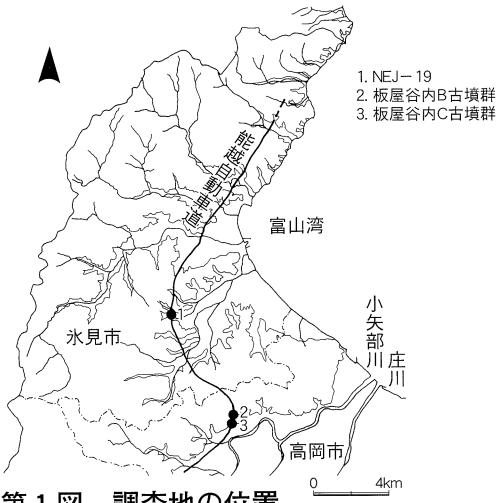
氷見市は富山県北西部に位置し、三方を石動丘陵・宝達丘陵・二上山丘陵に囲まれ、東を富山湾に面している。今年度包蔵地確認調査を行った上久津呂地内のN E J - 19埋蔵文化財包蔵地は、仏生寺川とその支流である万尾川と中谷内川によって開析された十三谷平野に向かって、宝達丘陵から舌状にのびる小丘陵の間に位置する。

高岡市は二上山丘陵を挟んで氷見市の南、小矢部川と庄川による沖積平野に位置する。西は西山丘陵、東は庄川を境とする。五十里地内の板屋谷内B古墳群・板屋谷内C古墳群は、小矢部川左岸の西山丘陵上に位置している。

2 周辺の遺跡（第2図）

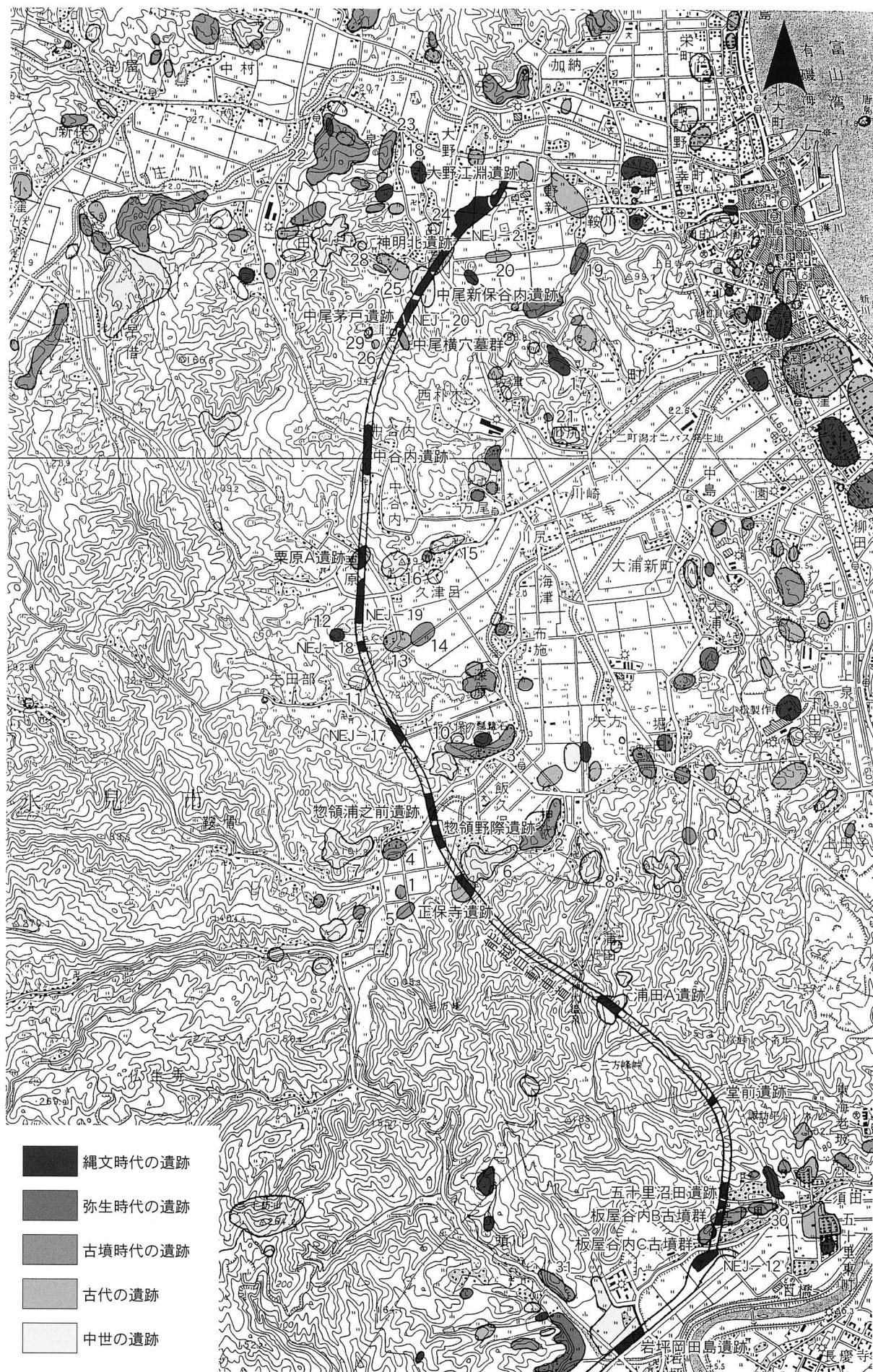
N E J - 19埋蔵文化財包蔵地が所在する氷見市上久津呂周辺は、丘陵と平野が入り組んだ地形となっている。平野部は集落跡を主体とし、丘陵上には古墳群や中世の山城などが見られる。調査対象地南西の丘陵上には、縄文時代・古墳時代の散布地である上久津呂ゴダンダ山遺跡（12）があり、石斧・土師器などが見つかっている。南東の平野部には上久津呂A遺跡（13）、上久津呂B遺跡（14）がある。上久津呂A遺跡からはかえりのある須恵器の杯蓋など7世紀後半から8世紀中頃までの遺物が出土している。上久津呂B遺跡は古くから周知の遺跡であり、縄文・弥生・古墳・古代の各時代の遺物が見つかっている。また、調査対象地と万尾川を挟んで北側の丘陵の上には中世の山城である久津呂城跡（15）、山裾には中世の墓をもつ上久津呂C遺跡（16）や古代の遺跡である粟原A遺跡がある。粟原A遺跡は平成14年度に当事務所によって丘陵部分の包蔵地確認調査が行われ、8～9世紀を中心とする遺跡であることが確認された。また、平成15年度にも氷見市教育委員会によって平野部分の包蔵地確認調査と本調査の一部が行われている。

高岡市五十里地内の板屋谷内B古墳群・板屋谷内C古墳群は、宝達丘陵から派生した西山丘陵上に位置するが、同じ尾根の東端には板屋谷内A古墳群（30）がある。板屋谷内A・B・C古墳群の北側斜面を下った所には五十里沼田遺跡（旧N E J - 13埋蔵文化財包蔵地）が位置する。平成13年度に当事務所が包蔵地確認調査を行い、平成15年度に高岡市教育委員会によって本調査が行われた。五十里沼田遺跡は古墳時代の集落跡であり、板屋谷内A・B・C古墳群との関係が考えられる。また、南西の丘陵先端部には古代の遺跡である頭川城ヶ平横穴墓群（31）がある。頭川城ヶ平横穴墓群と小矢部川に挟まれた狭い平野部には岩坪岡田島遺跡があり、平成12・13年度に本調査が行われた。縄文時代・古代・中世の遺構・遺物が見つかっている。西山丘陵上には他にも、安居山古墳群・四十九古墳群などの古墳群が点在している。



第1図 調査地の位置

(野口雅美)



第2図 能越自動車道路線内の埋蔵文化財包蔵地と周辺の遺跡 (1 : 50,000)

1. 惣領古墳
2. 光西寺古墳群
3. 寺飯久保古墳群
4. 惣領遺跡
5. 惣領B遺跡
6. 飯久保城跡
7. 惣領砦
8. 神代城跡
9. 堀田城跡
10. 矢田部六反坪遺跡
11. 矢田部ナカタ遺跡
12. 上久津呂ゴタンダ山遺跡
13. 上久津呂A遺跡
14. 上久津呂B遺跡
15. 久津呂城跡
16. 上久津呂C遺跡
17. 荒館B遺跡
18. 大野沢遺跡
19. 鞍川横羽毛遺跡
20. 沖布B遺跡
21. 坂津B遺跡
22. 泉古墳群
23. 泉往易古墳群
24. 大野南遺跡
25. 泉中尾廃寺跡
26. 中尾山田遺跡
27. 千久里山城
28. 千久里岩屋堂遺跡
29. 中尾ガメ山遺跡
30. 板屋谷内A古墳群
31. 頭川城ヶ平横穴墓群

II 調査の経緯

1 調査の契機と既往の調査（第1表）

能越自動車道は、富山県西部・能登地域の高速交通体系の確立及び地域活性化のため昭和62年の高規格幹線道路計画の一環として、石川県輪島市から富山県砺波市に至る延長約100kmの自動車専用道路として計画された。平成2年にこの工事計画を受け、国土交通省（以下、国土省）富山県工事事務所（現富山河川国道事務所）・県教育委員会（以下、県教委）・小矢部市教育委員会で協議が行われ、小矢部市域の分布調査を行うことが決定した。また、平成4年からは当財団が国土省から委託を受け発掘調査を実施している。これ以降、能越自動車道関連の調査は、分布調査を県教委、確認調査を地元市教育委員会及び当財団、本調査を当財団が主体となり平成4年度から継続して実施している。

2 調査に至るまで

平成12年度に県教委によって行われた能越自動車道高岡IC～氷見IC間の分布調査は、NEJ-13～21の埋蔵文化財包蔵地9ヶ所と周知の遺跡9ヶ所の範囲を再確認する結果となった。

平成13・14年度、当財団は国土省から委託を受け、NEJ-13～18・20・21埋蔵文化財包蔵地と周知の遺跡7ヶ所の確認調査を行った。その結果、五十里沼田遺跡、堂前遺跡、神明北遺跡、大野江淵遺跡、惣領野際遺跡、惣領浦之前遺跡を新たに認定し、中尾新保谷内遺跡、正保寺遺跡、栗原A遺跡、中谷内遺跡の範囲を確認した。

平成15年4月18日、県庁において国土省、県文化財課、財団で協議が行われ、高岡市板屋谷内B・C古墳群、氷見市NEJ-19の埋蔵文化財包蔵地調査が財団に委託された。これを受けて、財団はNEJ-19の包蔵地確認調査を5月13日から6月2日まで行った。平成15年6月10日、県庁において国土省、県文化財課、財団の協議が行われ、財団からNEJ-19の調査結果が報告された。遺跡範囲が南の丘陵斜面に広がる可能性があること、山林部分が調査できなかったことから、樹木の伐採が要望された。平成15年9月18日氷見市惣領野際・惣領浦之前遺跡現場事務所において国土省、県文化財課、富山県森林組合連合会、財団で協議が行われ、NEJ-19と板屋谷内B・C古墳群包蔵地調査の範囲の伐採を優先して行うこととした。伐採が終了した後、NEJ-19の調査を10月20・21日、11月13・14日、板屋谷内B・C古墳群の調査を11月17日から12月2日まで行った。
(野口雅美)

年度	調査対象地	調査種類	調査主体	調査面積(m ²)	調査期間	調査結果
平成14	神明北遺跡	本発掘	財団	3,120	7/3～9/25	古代・中世の集落を調査
	中尾新保谷内遺跡	本発掘	財団	9,377(延13,076)	5/22～12/6	古墳時代・古代・中世の集落を調査
	中尾茅戸遺跡	本発掘	財団	1,236	9/24～12/17	古墳時代の集落を調査
	NEJ-15	包蔵地確認調査	財団	1,064(対象16,950)	5/27～5/31	惣領野際遺跡を設定
	NEJ-16	包蔵地確認調査	財団	767(対象10,200)	6/3～6/6	惣領浦之前遺跡を設定
	NEJ-17	包蔵地確認調査	財団	639(対象14,890)	7/17～9/25	遺構は確認されなかった
	NEJ-18	包蔵地確認調査	財団	477(対象4,910)	6/18～11/1	遺構は確認されなかった
	正保寺遺跡	包蔵地確認調査	財団	228(対象16,950)	9/30～10/28	古代・中世の集落跡を確認
	栗原A遺跡	包蔵地確認調査	財団	76(対象3,100)	6/25～6/28	古代・中世の集落跡を確認
	中谷内遺跡	包蔵地確認調査	財団	1,455(対象42,870)	6/6～12/3	縄文・古墳・古代・中世の集落跡を確認
平成15	中尾横穴墓群	包蔵地確認調査	財団	252(対象4,210)	6/19～7/5	遺構は確認されなかった
	中尾茅戸遺跡	包蔵地確認調査	財団	198(対象6,500)	11/19～11/20	遺構は確認されなかった
	中尾新保谷内遺跡	本発掘	財団	7,415	5/27～10/3	古代・中世の集落を調査
	中尾茅戸遺跡	本発掘	財団	1,361	6/23～11/18	古代の集落を調査
	中谷内遺跡	本発掘	財団	11,720(延30,672)	5/26～12/25	古墳時代・古代の集落を調査
平成16	上久津呂中屋遺跡	本発掘	財団	1,020	11/13～12/16	弥生時代・古代・中世の集落を調査
	惣領野際遺跡	本発掘	財団	9,808(延19,616)	5/27～12/24	古墳時代・中世の集落を調査
	惣領浦之前遺跡	本発掘	財団	7,268(延13,378)	5/27～11/12	弥生時代・古墳時代・古代・中世の集落を調査

第1表 既往の調査一覧

(平成13年度以前の調査については、財団法人富山県文化振興財団1998・2001「能越自動車道関連埋蔵文化財調査報告」を参照)

III 調査の概要

1 N E J -19埋蔵文化財包蔵地（上久津呂中屋遺跡）

(1) 調査対象地（図版1）

N E J -19埋蔵文化財包蔵地は仏生寺川支流である万尾川の上流の右岸、宝達丘陵から派出した小丘陵の斜面に挟まれた谷間から裾野にかけて位置する。万尾川を挟んで北側には粟原A遺跡が、南側の小丘陵を越えるとN E J -18埋蔵文化財包蔵地が存在する。現況は水田・畑地・山林である。標高は北側の水田部で1.1m、南側の丘陵部で19mを測り、南の丘陵部分から北の平地に向かって傾斜する地形である。

(2) 調査の方法（第3～5図）

幅1.5または1.8m（山林部のみ0.9m）、長さ5～65mの包蔵地確認溝（トレンチ、以下Tと略す）を対象地に39ヶ所設定し、重機により表土の掘削を行い、人力で遺構及び土層断面の検出を行った。

当初の調査対象面積は22,755m²であったが、調査の進展に従って埋蔵文化財包蔵地と推定されていた範囲が南へ延びることが予想された。このため南側の山林へ向かって調査範囲を3,800m²拡張した。調査面積は1,492m²である。

(3) 基本層序と調査の状況（第2表、第3～5図、図版2）

一般県道300号線（氷見・志雄線）を境にして調査地の南北で状況が異なる。このため、粟原地区（県道北側）と上久津呂地区（県道南側）に分けて概要を記す。

① 粟原地区（T 1～8）

a. 基本層序 T 1・T 2・T 3 の北側部分

I a層	耕作土	灰オリーブ色シルト（20cm）
I b層	盛土	灰色粘土（70cm）
I c層	谷・湿地	黒色シルト・ピート

T 3 の南側部分・T 4～8

I 層	耕作土・盛土	明灰黄色粘質シルト（38cm）
II 層	中世遺物包含層	オリーブ褐色粘土（23cm）
III 層	弥生～古墳時代遺物包含層・中世遺構検出面	オリーブ黒色砂質シルト（15cm）
IV 層	弥生～古墳時代遺構検出面（地山）	黄橙色砂

b. 調査の状況

T 1・T 2とT 3の北側は、その堆積状況から万尾川による開析谷と考えられ、植物遺体を多く含む層と黒色シルト層が互層になって厚く堆積する。遺物包含層は見られない。地表面から約3m下で貝層が確認された。中世遺物包含層であるII層はT 4～7に分布し、T 3・T 8では認められない。II層からは主に中世土師器や珠洲が出土している。弥生～古墳時代遺物包含層と中世遺構検出面であるIII層はT 5～7の南から10～13m付近とT 3の南から13mの地点の間に見られる。中世遺構検出面は湧水が激しかったが、穴・溝等が確認できた。III層は、特にT 5～7の北側とT 4の西側で厚く堆積している。ここからは弥生時代後期から古墳時代初期の土器が良好な状態で出土しており、流路または谷の可能性がある。T 8では、耕作土直下が弥生～古墳時代遺構検出面で、穴・土坑・溝等を検出した。

② 上久津呂地区 (T 9～39)

a. 基本層序

I 層	耕作土・盛土	灰黄褐色砂質ローム・暗褐色粘土など (92cm)
II 層	縄文時代～古代遺物包含層	黒褐色粘土 (38cm)
III 層	縄文時代～古代遺構検出面 (地山)	暗オリーブ灰色砂・明黄褐色粘土

b. 調査の状況

当初T24までの調査を予定していたが、T24の調査結果から遺跡の範囲が南に延びる可能性があったためT32～39を追加した。T9～27とT32～36の一部で遺物包含層が認められたが、T28～30には遺物包含層の遺存は認められなかった。遺構検出面は地表下0.2～3mで確認されたが、T11～14では盛土が厚く堆積し重機による深掘りを行った所でしか検出面を見ることができなかった。検出された主な遺構は穴と溝である。詳細な遺構の時期は不明だが、出土遺物から古代を中心とした時期と見られる。西側丘陵の裾と南側丘陵部に4ヶ所の落ち込みが見られたが、これらは旧地形と思われる。落ち込みからは古墳時代～古代の土師器、須恵器が多く出土している。また、T16・T17・T25～27で検出された北西から南東方向の谷の下層からは縄文時代前期～後期の土器や石器が大量に見つかっており、西側の丘陵上に当該期の集落跡が想定される。T37・T38では表土直下がにぶい黄橙色の地山になっている。

(4) 出土遺物 (図版3・4)

遺物は縄文土器・石器・土製品、弥生土器、古墳時代の土師器、古代の土師器・須恵器、中世土師器・珠洲・白磁・唐津、木製品などが出土した。

図版3上は縄文土器、下は石器・土製品である。縄文土器は、極楽寺式、福浦上層式、新保式、上山田式、串田新式、気屋式など縄文時代前期から後期にかけての幅広い時期の型式が見られる。ここに挙げた土器は殆どがT16・T17・T25～27を通る谷から出土したものである。石器は、打製石斧・磨製石斧・礫石錘・敲石・凹石。土製品は、管状土錘・円盤状土製品・土器片錘。右下は有孔の土製玉で、直径2.8cm。T26の谷部から出土している。管状土錘以外は縄文時代の遺物である。

図版4上は弥生土器・土師器、下は須恵器・中世土師器・珠洲・白磁である。弥生土器（中段右から2番目）は器台もしくは高杯の脚部。脚内は中空であるが、杯部の底が剥がれた可能性もあり、どちらともいえない。T7から出土。土師器は、壺・甕・高杯・把手。中段右端は製塩土器の底部。須恵器は杯・杯蓋・壺の口縁。中世土師器は皿。珠洲は甕とすり鉢で、右下のものはV期の片口鉢である。白磁は皿。底面に墨書があるが文字の判別はできない。

(5) 調査の結果 (第3～5図)

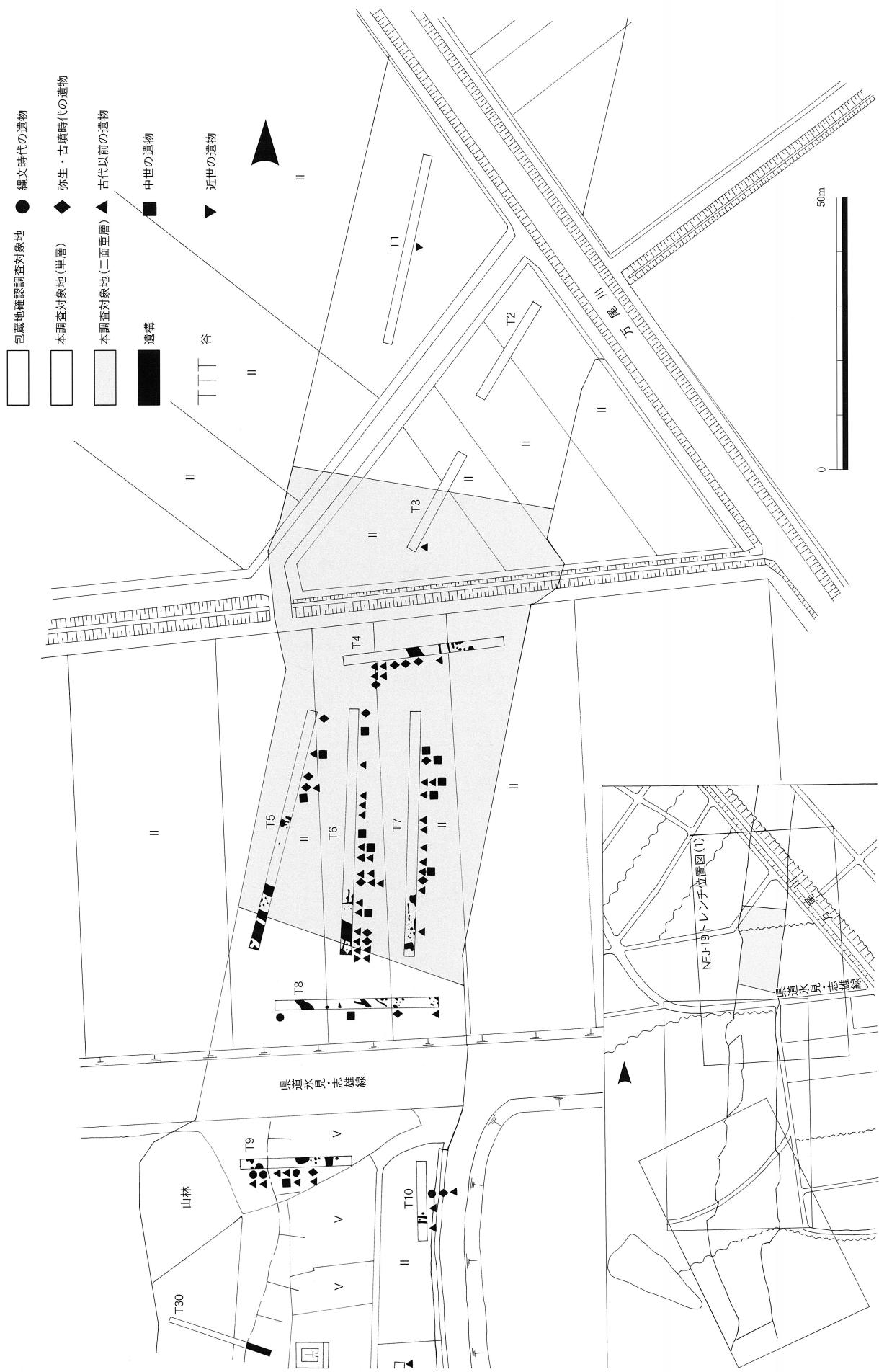
粟原地区では、T1～8の調査結果から、T3の南側約13m地点まで遺物包含層が広がることが確認された。これより北には遺物包含層の遺存は認められなかった。T3から南側は丘陵部に至るまで対象地のほぼ全面に遺物包含層及び遺構面が認められた。この内T3～7では遺構検出面が2面確認され、その面積は約3,800m²である。従って県道部分までの本調査対象面積は5,250（延9,050）m²である。上久津呂地区西側の山林部分は丘陵の裾までを本調査の範囲とし、南端は当初の予定範囲よりも約90m拡張した。この結果、本調査対象となる遺跡面積は17,500m²である。

これらの結果から本調査対象面積は22,750m²（延26,550m²）。遺跡の名称は付近の字名から「上久津呂中屋遺跡」とした。なお、粟原地区は本調査も行われた。詳細は『平成15年度埋蔵文化財調査概要』を参照されたい。

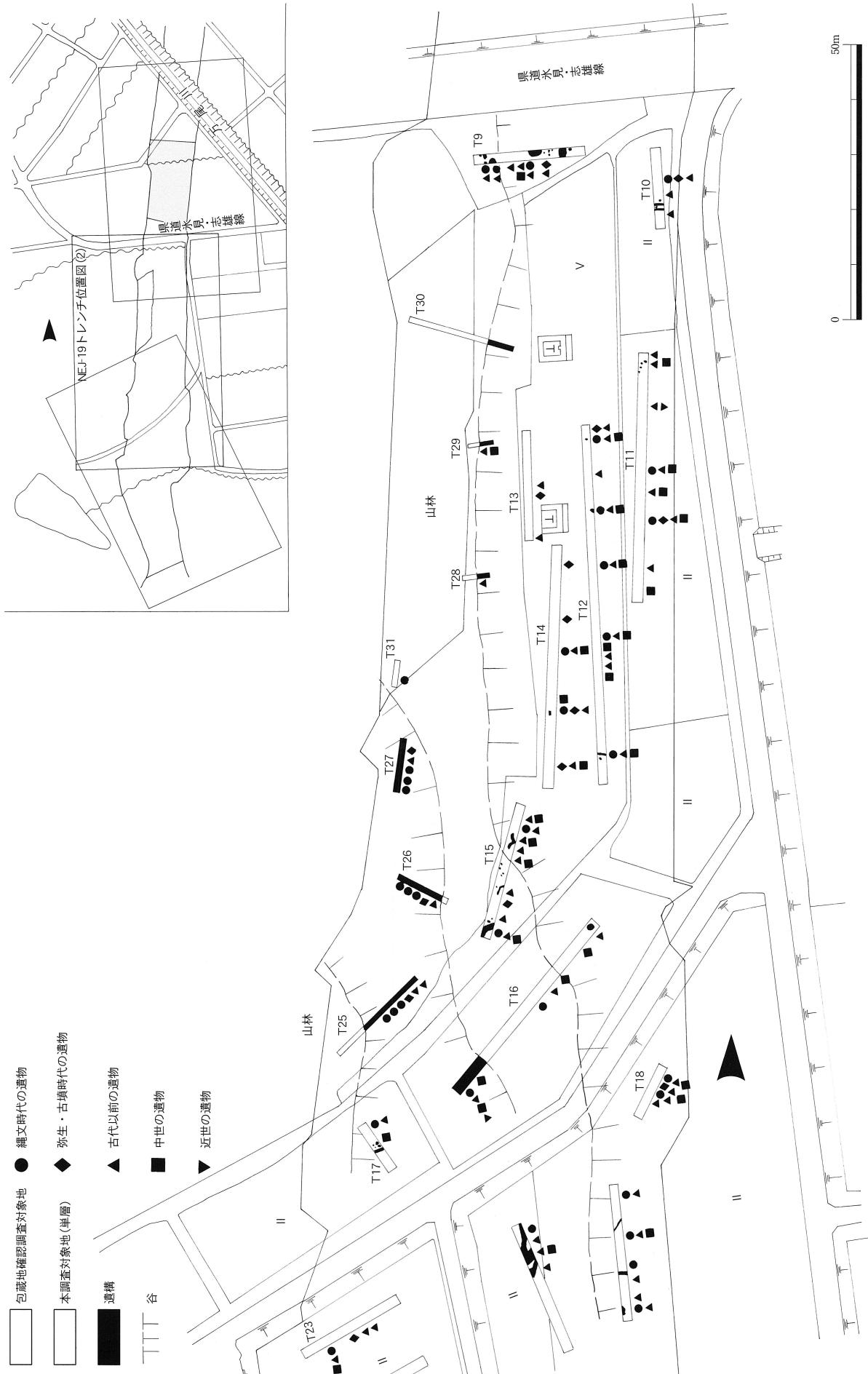
(野口雅美)

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	I層	II層	III層	遺構
T1	35	—	伊万	—	—	
T2	20	—		—	—	
T3	21.6	0.4(III層)			土師	
T4	31	0.6(III層) 0.7(IV層)	土師・須恵		埴土・土師	溝4(埴土)・土坑2・穴6
T5	47	0.6(IV層)		埴土・須恵・中土・珠洲	弥生・埴土・土師	溝4・土坑3(埴土)・穴13(埴土)
T6	46.5	0.7(III層) 0.5(IV層)	埴土・土師・須恵・珠洲・近世陶磁	土師・中土・珠洲	弥生・埴土・土師・須恵・中土	溝2・土坑5(埴土・須恵)・穴8(土師)
T7	46	0.5(III層) 0.4(IV層)	土師	中土・土師	弥生・土師・須恵・中土・珠洲	土坑3・穴12(土師)
T8	32	0.4(IV層)			繩土・珠洲	溝3・穴15(埴土・土師)
T9	20	0.7(III層)		繩土・埴土・土師・須恵・珠洲・蹄鉄		土坑6・穴6
T10	14.8	1.5(III層)		繩土・弥生・埴土・土師・須恵		溝2・穴4
T11	45	1.7(III層)	土師・唐津・近世陶磁	繩土・土師・須恵・中土・珠洲・青白磁・越瀬		穴5
T12	65	2.4(III層)		繩土・磨斧・弥生・土師・須恵・中土・珠洲・砥石		溝1(繩土)・土坑2・穴2
T13	20	—	埴土・土師・須恵			
T14	45	3.2(III層)	繩土・土師・須恵・中土	埴土・土師		溝1
T15	25	0.8(III層)	土師・中土・珠洲	埴土・土師		溝2(繩土・土師・須恵)・土坑2(土師・須恵・中土)・穴8
T16	40	0.9(III層)	釘	繩土・土師・須恵・珠洲		谷1(繩土・磨斧・打斧・須恵・珠洲・越瀬・骨)・土坑(敲石・土師)・穴1
T17	10	2.0(III層)	繩土・土師・中土	白磁		溝1(繩土・土師)・土坑2・穴2
T18	10	1.7(III層)	繩土・埴土・土師・須恵・珠洲・青磁	繩土・土師・須恵・中土		
T19	25	0.7(III層)		繩土・土師・須恵・珠洲		溝2・土坑1
T20	25	0.4(III層)		須恵		溝2(繩土・土師・須恵・珠洲)
T21	20	—	土師・中土	繩土・埴土・土師		
T22	20	—		繩土・石錘・中土・曲物		
T23	20	—	中土	繩土・凹石・弥生・埴土・土師		
T24	25	1.2(III層)				土坑2(埴土)・穴1(珠洲)
T25	20	1.0(III層)	—	—		谷1(繩土・打斧・埴土・土師・須恵)
T26	10	1.2(III層)	—	—		谷1(繩土・土製玉・打斧・埴土・土師・須恵・製塙土器)
T27	10	—	近世陶磁	—		谷1(繩土・土製円盤・埴土・土師・須恵・砥石)
T28	5	0.3(III層)	土師			—
T29	5	0.3(III層)	土師・珠洲			—
T30	20	0.3(III層)	—	—		—
T31	5	0.2(III層)	—	繩土		
T32	55	0.4(III層)				谷1(埴土・土師・須恵)
T33	22	0.5(III層)	中土			谷1・穴2
T34	20	0.3(III層)	—	—		谷1
T35	18	0.2(III層)	—	—		谷1
T36	18	0.3(III層)				谷1(埴土・土師・須恵)
T37	18	0.2(III層)	—	—		—
T38	23	0.2(III層)	—	—		—
T39	10	0.2(III層)	土師			谷1

第2表 NEJ-19トレンチ一覧



第3図 NEJ-19トレンチ位置図 (1) (1 : 1,000)



第4図 NEJ-19トレーニング位置図(2) (1:1,000)



第5図 NEJ-19トレンチ位置図 (3) (1 : 1,000)

2 板屋谷内B古墳群・板屋谷内C古墳群

(1) 調査対象地（図版5）

板屋谷内古墳群の所在する五十里板屋谷内地区は、西山丘陵の東端にあたり、三方峰峠から東南に延びる尾根の先端に古墳群は立地する。西山地区一帯は分布調査により多くの遺跡が確認されており、特に板屋谷内古墳群は西井龍儀氏により詳細に踏査が行われた。昭和58年度に高岡市教育委員会が当該地区を含む西山地区の分布調査を実施しており、その成果によれば板屋谷内古墳群はAからD古墳群に分けられ、A古墳群6基、B古墳群16基、C古墳群4基、D古墳群2基の所在が報告されている。今回調査の対象となるのは、板屋谷内B古墳群と板屋谷内C古墳群で、B古墳群の8号墳から15号墳、C古墳群の1・2・4号墳が路線内にかかると見られる。東南方向に小矢部川と肥沃な高岡の平野を一望する、標高33～66mに位置する。

(2) 調査の方法（第6図）

幅1m、長さ11～40mのトレンチを13ヶ所設定した。これらは、既往の成果をもとに墳丘と見られる箇所に設定（T1～11）したが、対象地全面の樹木伐採後の地形確認により、推定C1号墳から東南に延びる尾根上で古墳と推定できる盛り上がりを確認したためT12・13を設定した。また、B古墳群とC古墳群の中間にあたる尾根の鞍部にT14を設定した。調査対象面積は13,200m²、調査面積は279m²である。

(3) 基本層序

I 層	表土	褐色砂質シルト・褐灰色腐植質土など	20～40cm
II 層	盛土	褐色砂・褐色砂質シルト・黒褐色砂質シルトなど	15～45cm
III 層	検出面（地山）	明黄褐色砂・明赤褐色砂など	

(4) 調査の状況（第3表、第6～12図、図版6～8）

調査地は、竹・葉を含む腐植土直下が地山層となる。T1・2・7・8・12で盛土と見られる堆積を確認。また、T3・9・10・11・12で地山を整形したと見られる段・溝を確認した。

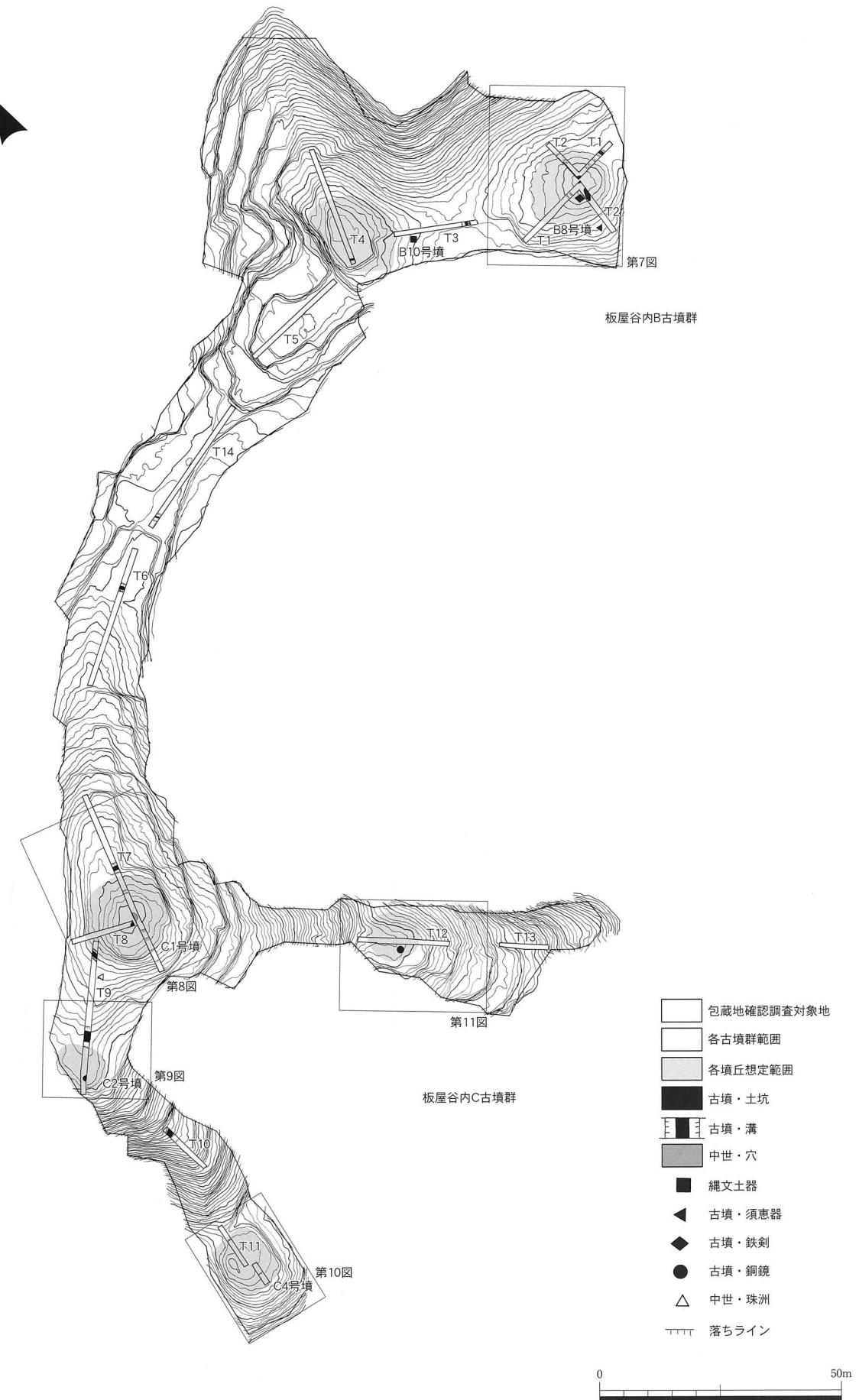
トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	I層	II層	III層	遺構	古墳
T 1	28	0.2～0.4				土坑（主体部？）・溝、II層墳丘盛土	B 8号墳
T 2	22.6	0.2～0.6		墳須・鉄剣		土坑（T1穴と同一遺構）、II層墳丘盛土	B 8号墳
T 3	17	0.25		縄土		溝	B 9号墳
T 4	24	0.1～0.3		—		土坑	B 10号墳
T 5	23.5	0.1～0.15		—			B 11号墳
T 6	19.5	0.1～0.35		—		溝	B 14・15号墳
T 7	40	0.1～0.75				穴（中世）・溝・土坑、II層墳丘盛土	C 1号墳
T 8	13.5	0.2～0.7				II層墳丘盛土	C 1号墳
T 9	31	0.1～0.45	珠洲			溝・土坑	C 2号墳
T 10	11	0.1～0.25		—		溝	C 4号墳
T 11	14.7	0.15～0.3		—			C 4号墳
T 12	16	0.15～0.65		銅鏡		溝・落ち込み	
T 13	11	0.1～0.4		—		落ち込み	
T 14	28	0.1～0.5		—		溝	B12・13号墳

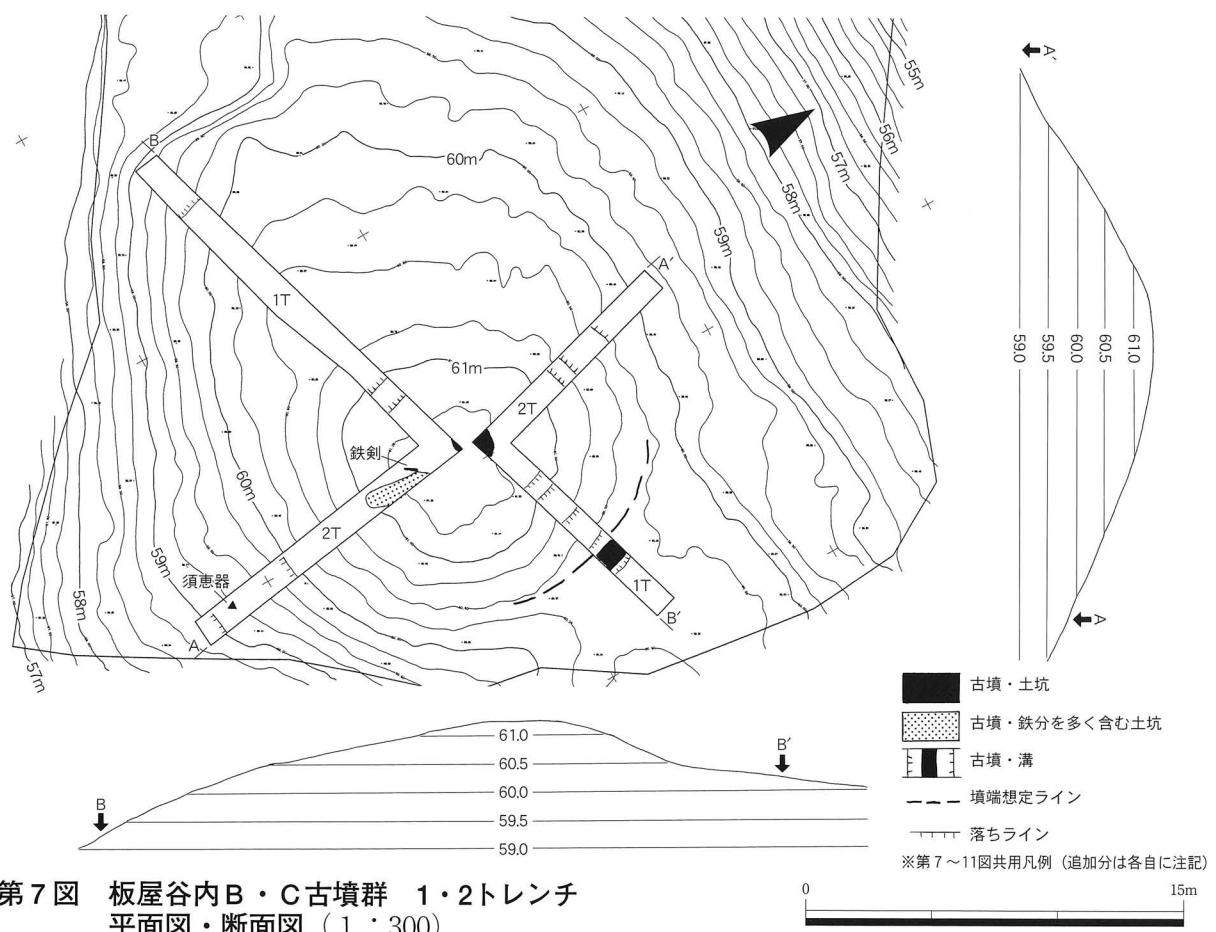
第3表 板屋谷内B・C古墳群トレンチ一覧（古墳は、西井龍儀氏の成果による）

(5) 調査の結果（第6～12図）

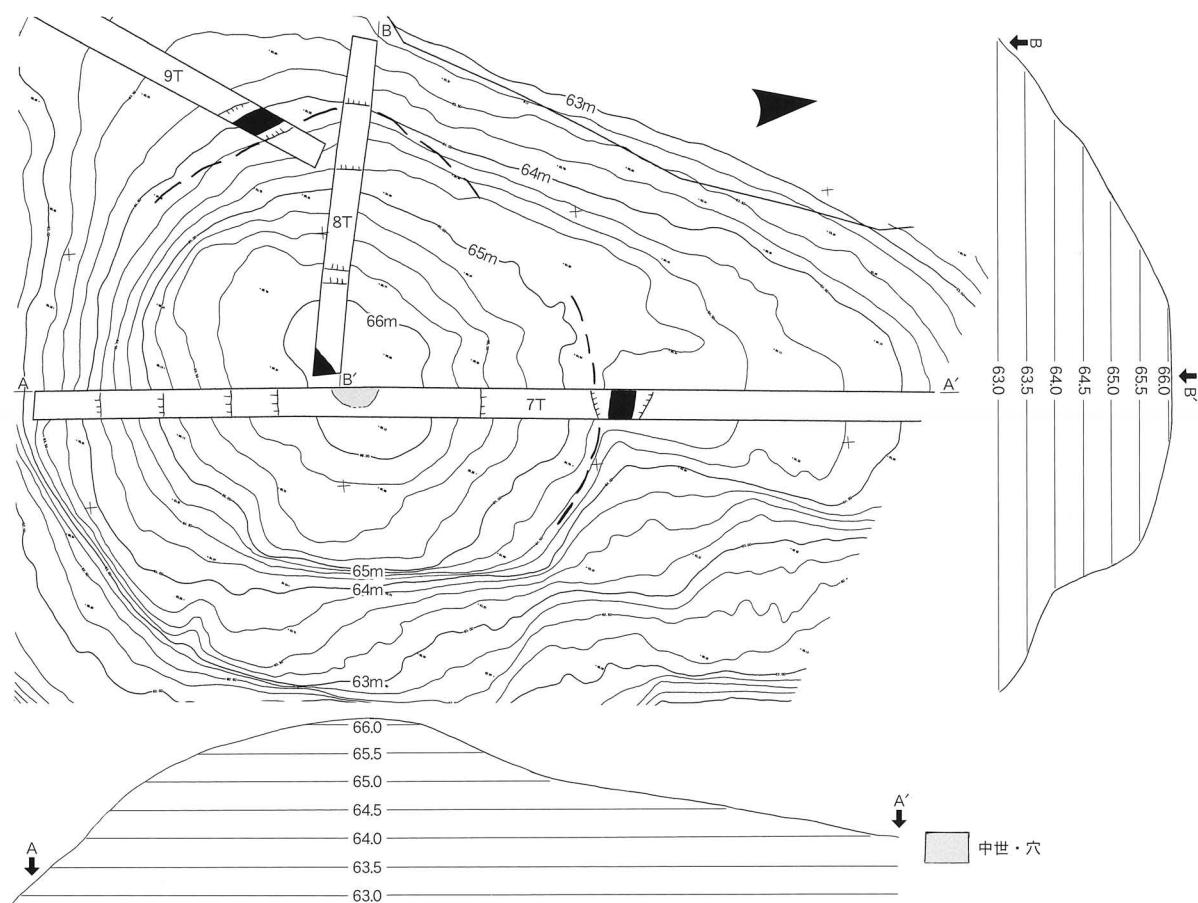
今回の確認調査では、検出した溝、堆積土（墳丘盛土）の検討、地山の成形の検討及び、現地形の検討から、5基の古墳を再確認し、1基の古墳を新たに推定した。さらにT3・6・10・14でも溝を確認している。竹林・棚田の開墾により尾根上の旧地形は大きく改変されており、尾根全面を調査する必要があり、本調査対象面積は約9,000m²である。

（菅田 薫）

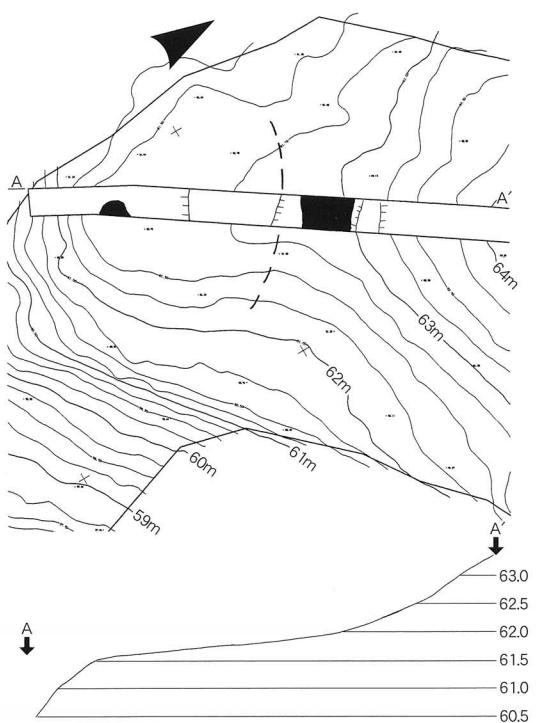




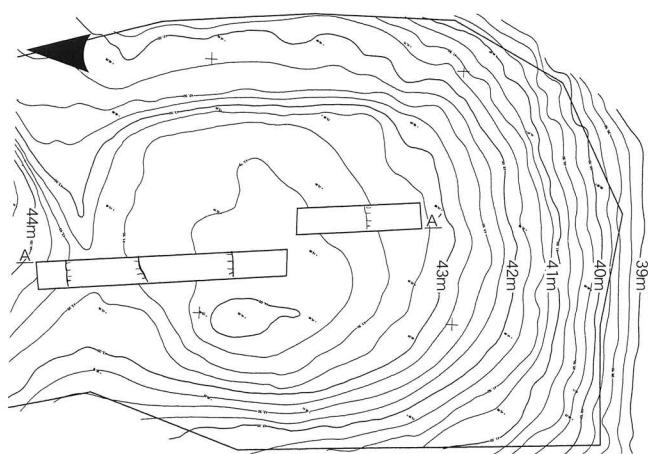
第7図 板屋谷内B・C古墳群 1・2トレンチ
平面図・断面図 (1:300)



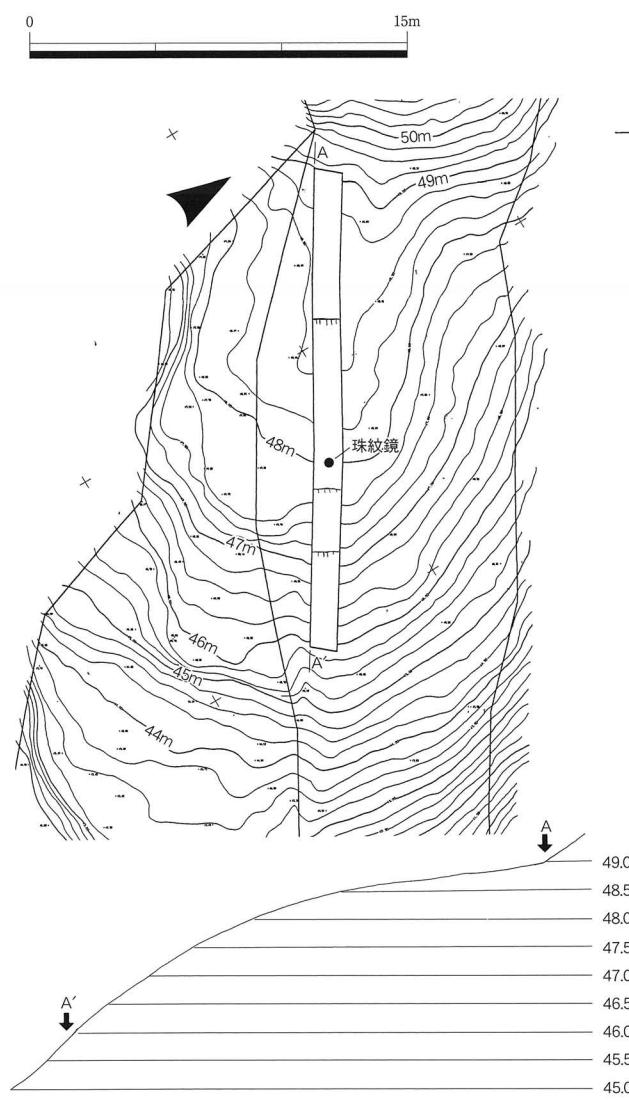
第8図 板屋谷内B・C古墳群 7・8・9トレンチ平面図・断面図 (1:300)



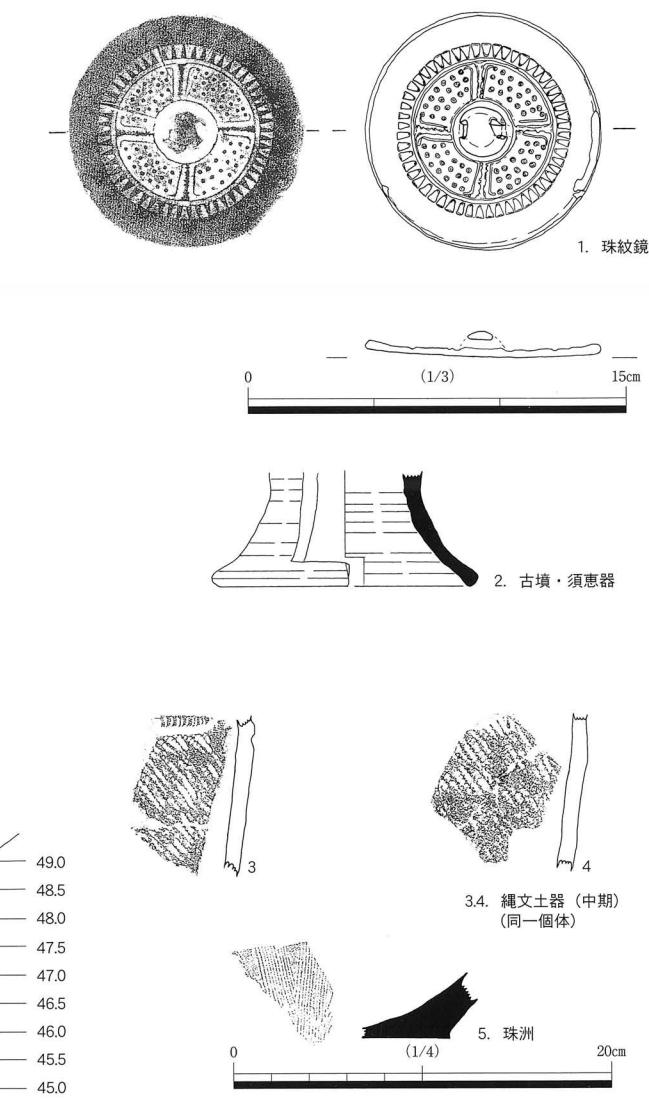
第9図 板屋谷内B・C古墳群 9トレンチ
平面図・断面図 (1 : 300)



第10図 板屋谷内B・C古墳群 11トレンチ
平面図・断面図 (1 : 300)



第11図 板屋谷内B・C古墳群 12トレンチ
平面図・断面図 (1 : 300)



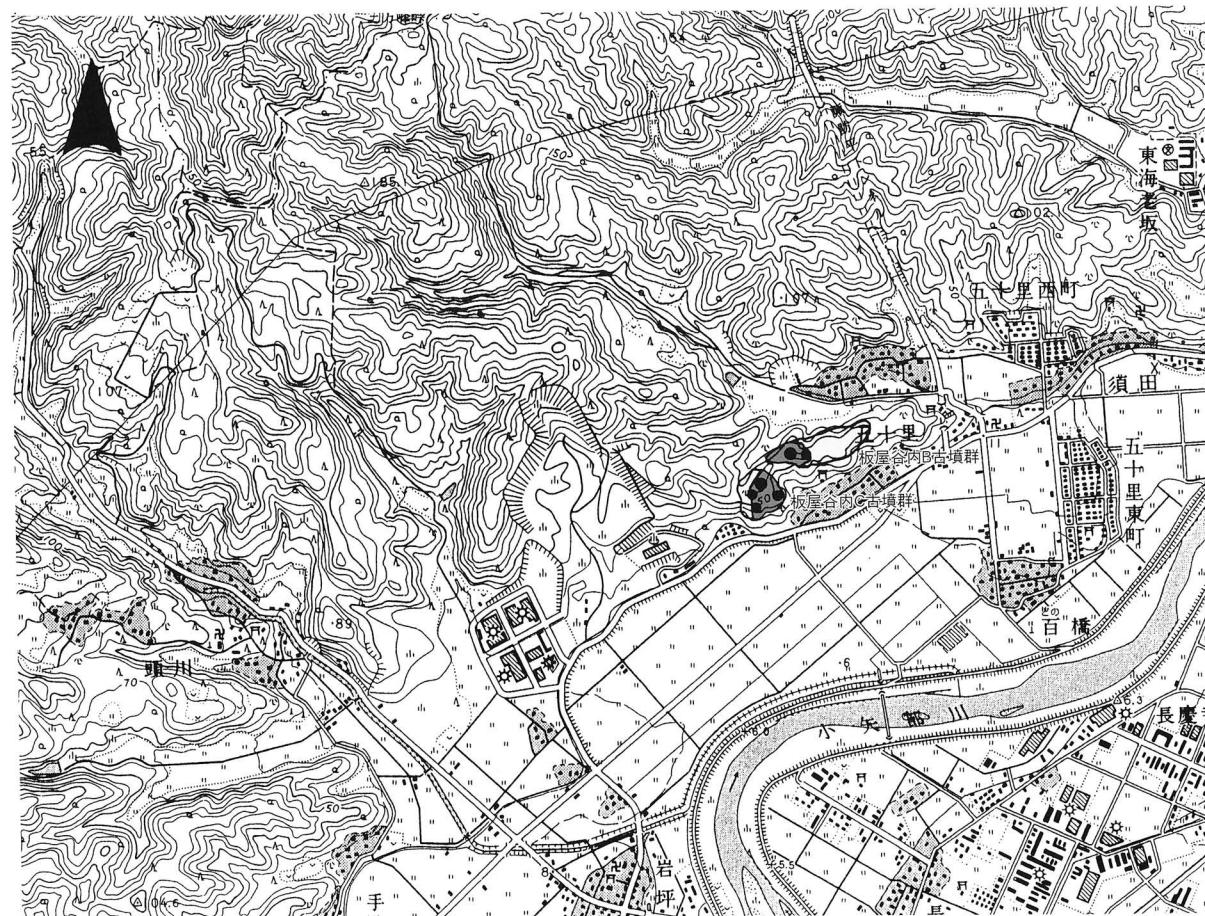
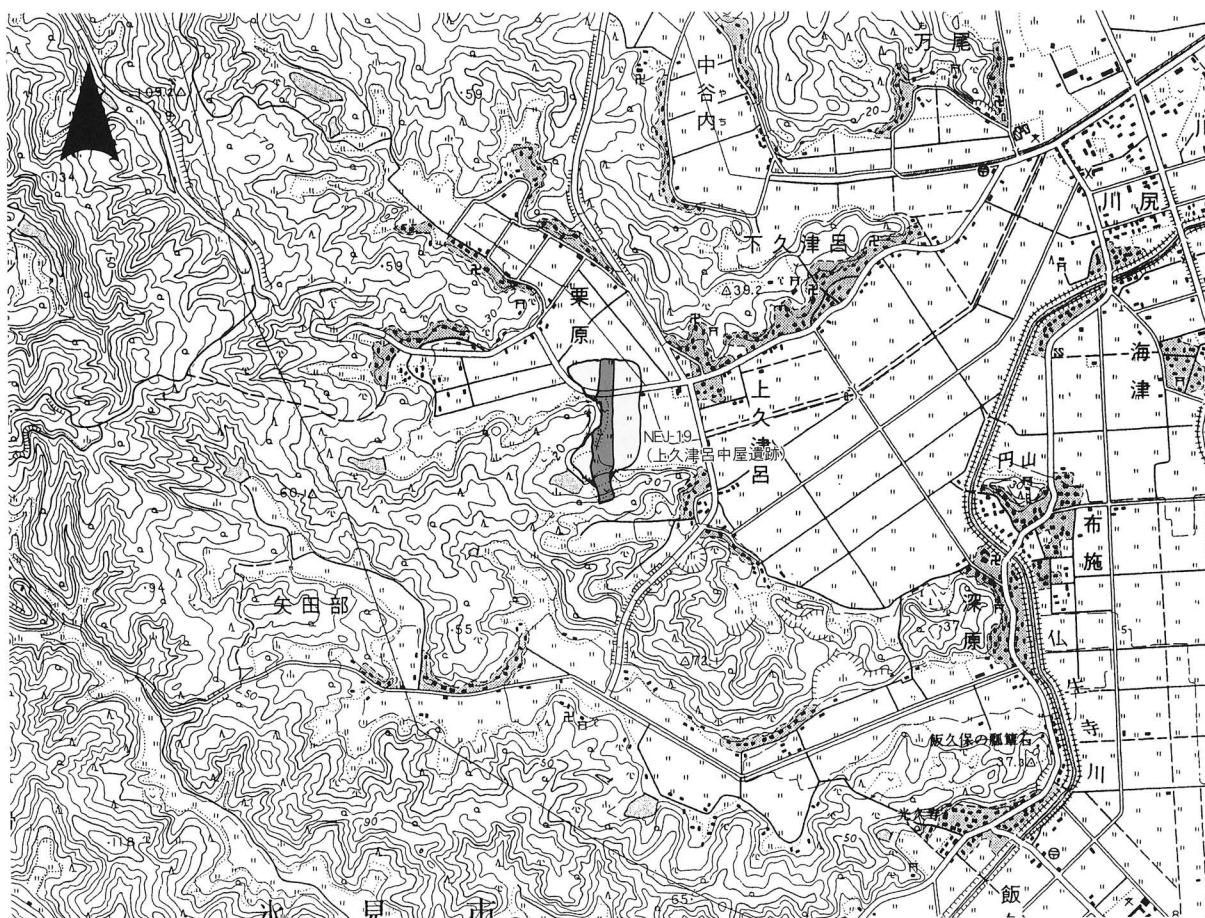
第12図 板屋谷内B・C古墳群 遺物実測図
(1/3 (1)、1/4 (2~5))
T2 (2) T3 (3・4) T9 (5) T12 (1)

IV 小 括

平成15年度に行った1ヶ所の埋蔵文化財包蔵地と2ヶ所の遺跡の埋蔵文化財包蔵地確認調査の結果は、次の通りである。

1. N E J -19埋蔵文化財包蔵地（氷見市上久津呂地内）では、調査範囲南端の丘陵から北側の平地までの間に縄文時代の谷と古代を中心とする遺跡が確認され、付近の字名から上久津呂中屋遺跡とした。県道氷見・志雄線の北側、粟原地区の一部では中世・古代と2面の遺構面が確認され、その面積は3,800m²である。本調査対象面積は22,750m²（延26,550m²）である。
2. 板屋谷内B古墳群（高岡市五十里地内）では、2基の古墳を確認した。確認された古墳は、周知の古墳の内8号墳、10号墳である。8号墳からは周溝・主体部と思われる遺構が検出され、鉄剣・須恵器が出土している。
3. 板屋谷内C古墳群（高岡市五十里地内）では、3基の古墳と新たな古墳1基が確認された。確認された古墳は、周知の古墳の内1号墳、2号墳、4号墳である。1号墳からは周溝・主体部と思われる遺構が検出された。新たに確認された古墳からは珠紋鏡が出土している。

（野口雅美）



第13図 今回の調査により新たに確認された遺跡の位置 (1:25,000)

引用・参考文献

- 大川清 他 1996 『日本土器事典』 雄山閣
- 国土地理院 1995 『1：25,000 地形図 飯久保』
- 1998 『1：25,000 地形図 氷見』
- 1996 『1：50,000 地形図 氷見』
- 1997 『1：50,000 地形図 石動』
- 財団法人富山県文化振興財団 2002 『能越自動車道関連埋蔵文化財調査報告 N E J -13 N E J -14 N E J -20 N E J -21 中尾坊田遺跡 中尾新保谷内遺跡』
- 埋蔵文化財調査事務所 2003 『能越自動車道関連埋蔵文化財調査報告 N E J -15 (惣領野際遺跡) N E J -16 (惣領浦之前遺跡) N E J -17 N E J -18 正保寺遺跡 粟原A遺跡 中谷内遺跡 中尾横穴墓群中尾茅戸遺跡』
- 高岡市教育委員会 1984 『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報 I』
- 2001 『頭川城ヶ平横穴墓群調査報告 III』
- 2002 『倉谷古墳群調査報告－能越自動車道造成土砂採取に伴う平成9～12年度の調査－』
- 竹内理三 他 1979 『角川日本地名辞典 16 富山県』 角川書店
- 戸沢充則 編 1994 『縄文時代研究事典』 東京堂出版
- 富山県埋蔵文化財センター 2000 『富山県埋蔵文化財包蔵地図』 平成12年加筆訂正
- 氷見市史編さん委員会 2002 『氷見市史7 資料編五 考古』
- 1999 『氷見市史9 資料編七 自然環境』

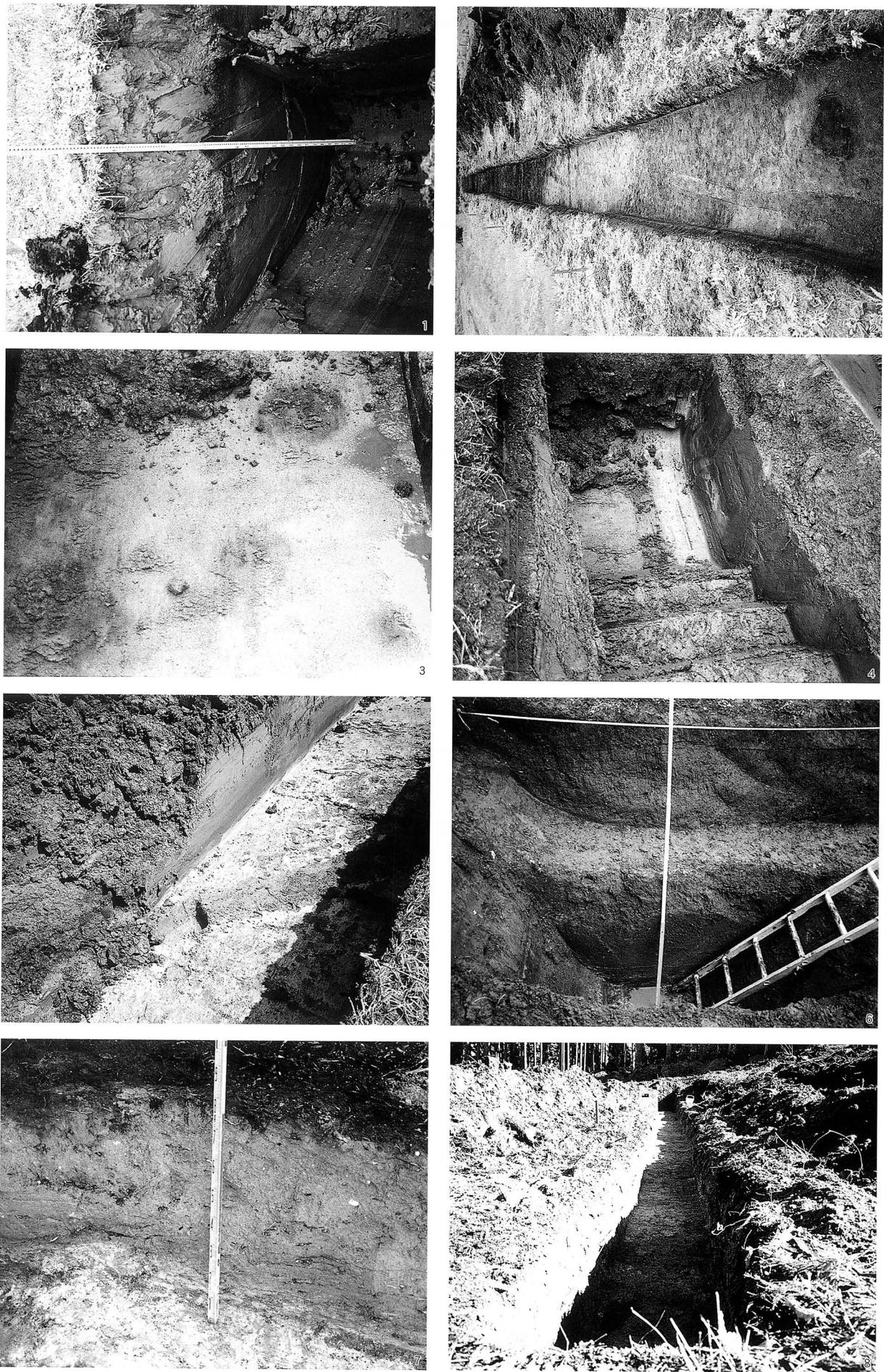


(1953年撮影)

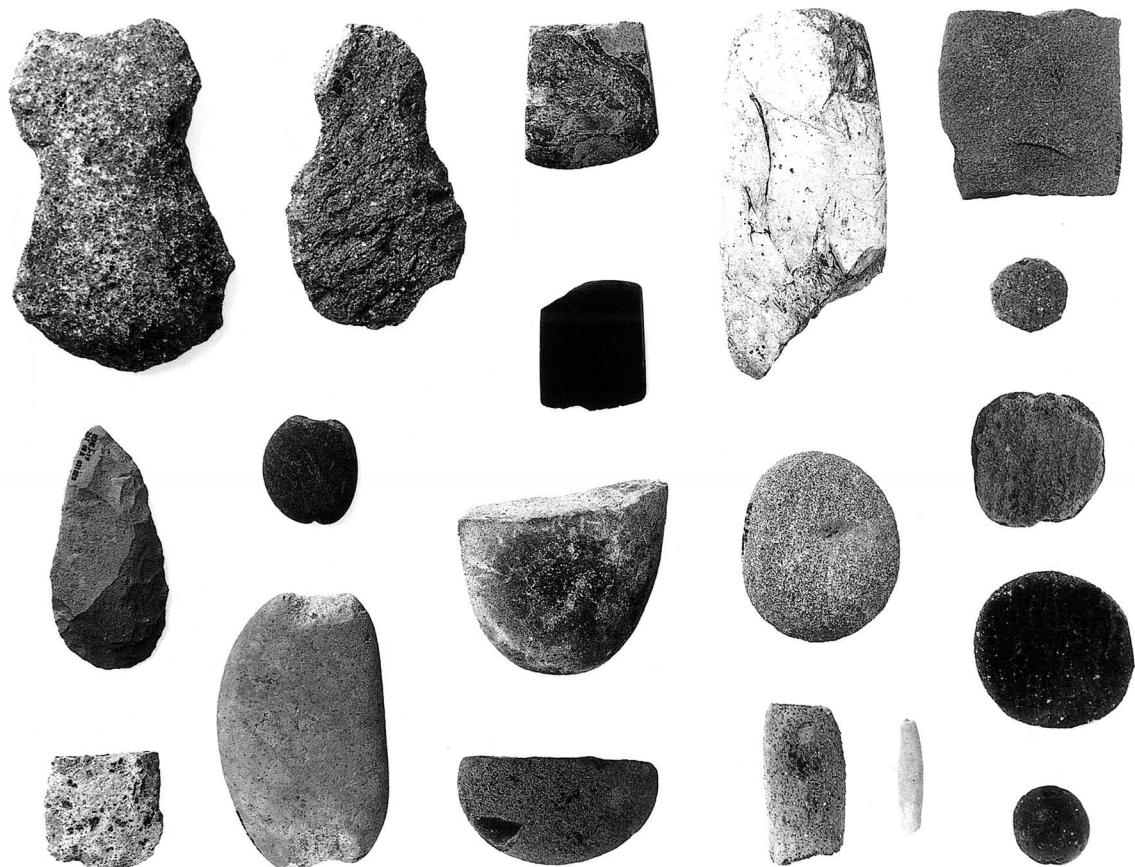
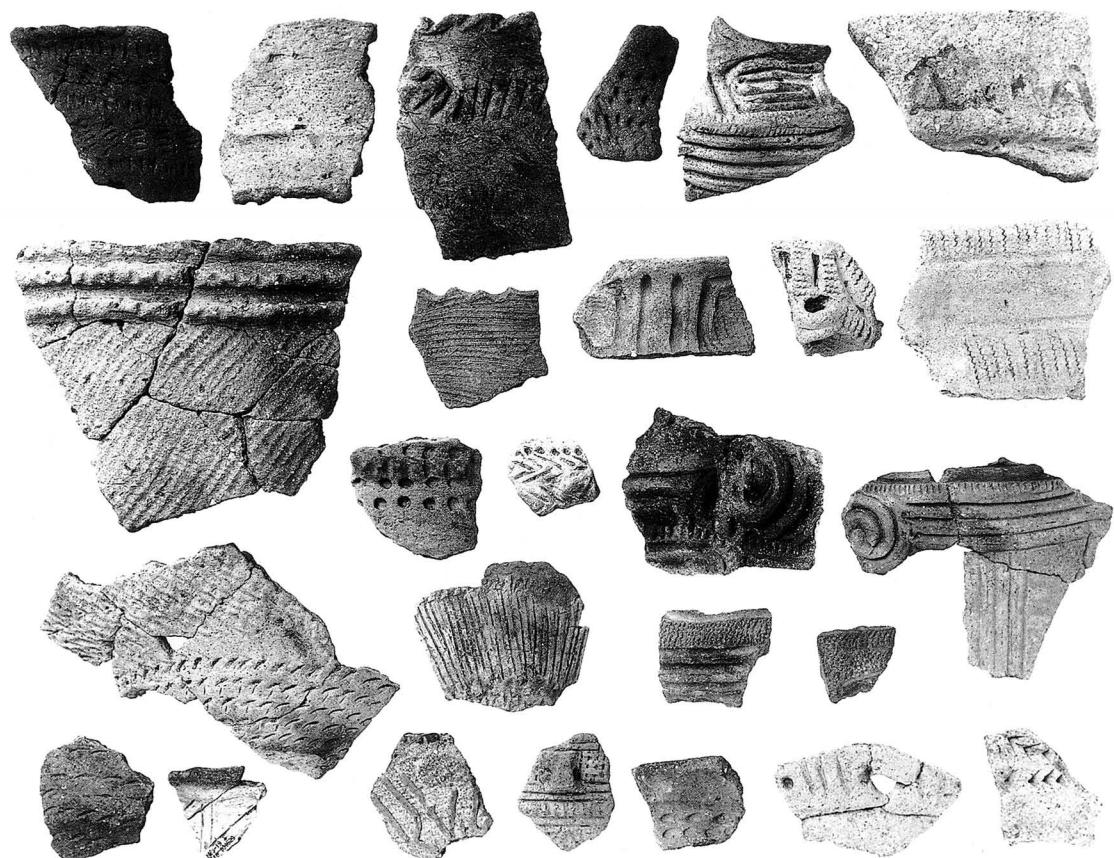


(2000年撮影)

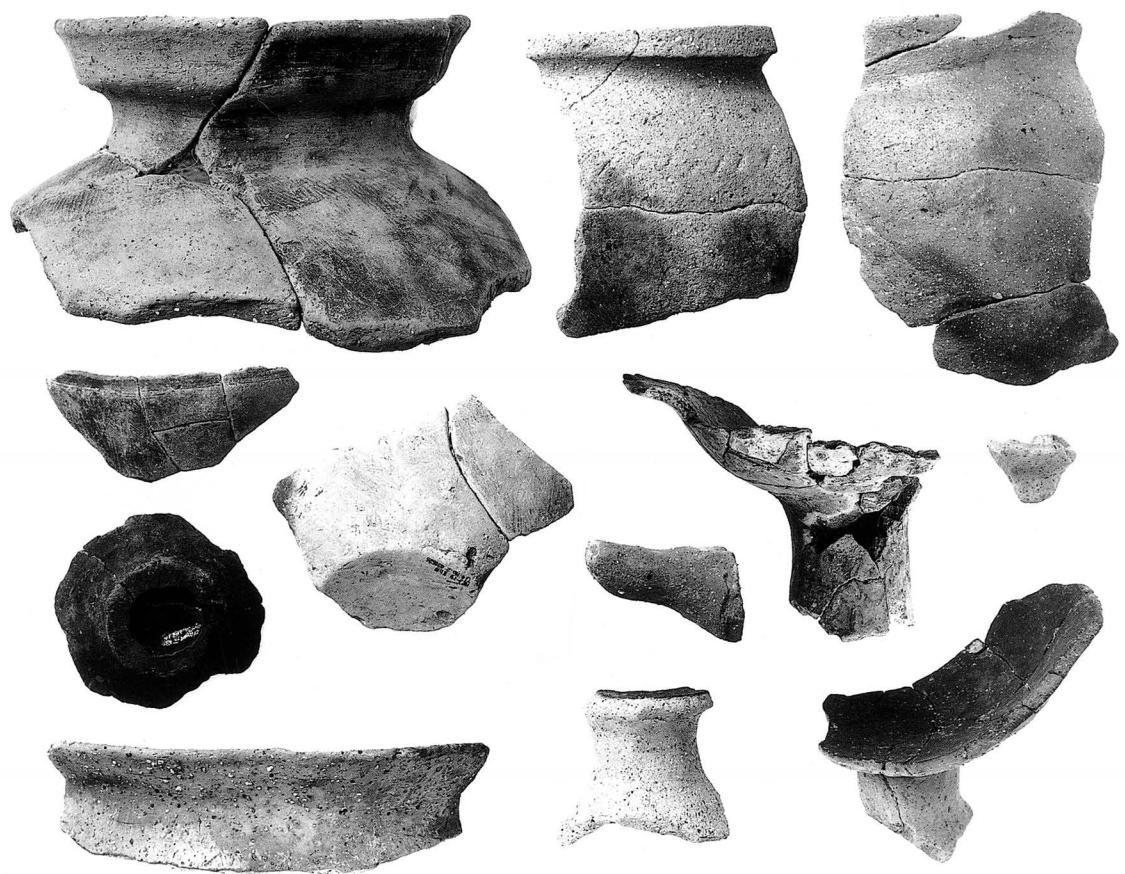
図版1 N E J -19航空写真



図版2 NEJ-19 1. T1土層 2. T6全景 3. T11遺構 4. T14遺構 5. T19遺構
6. T26土層 7. T29土層 8. T35全景



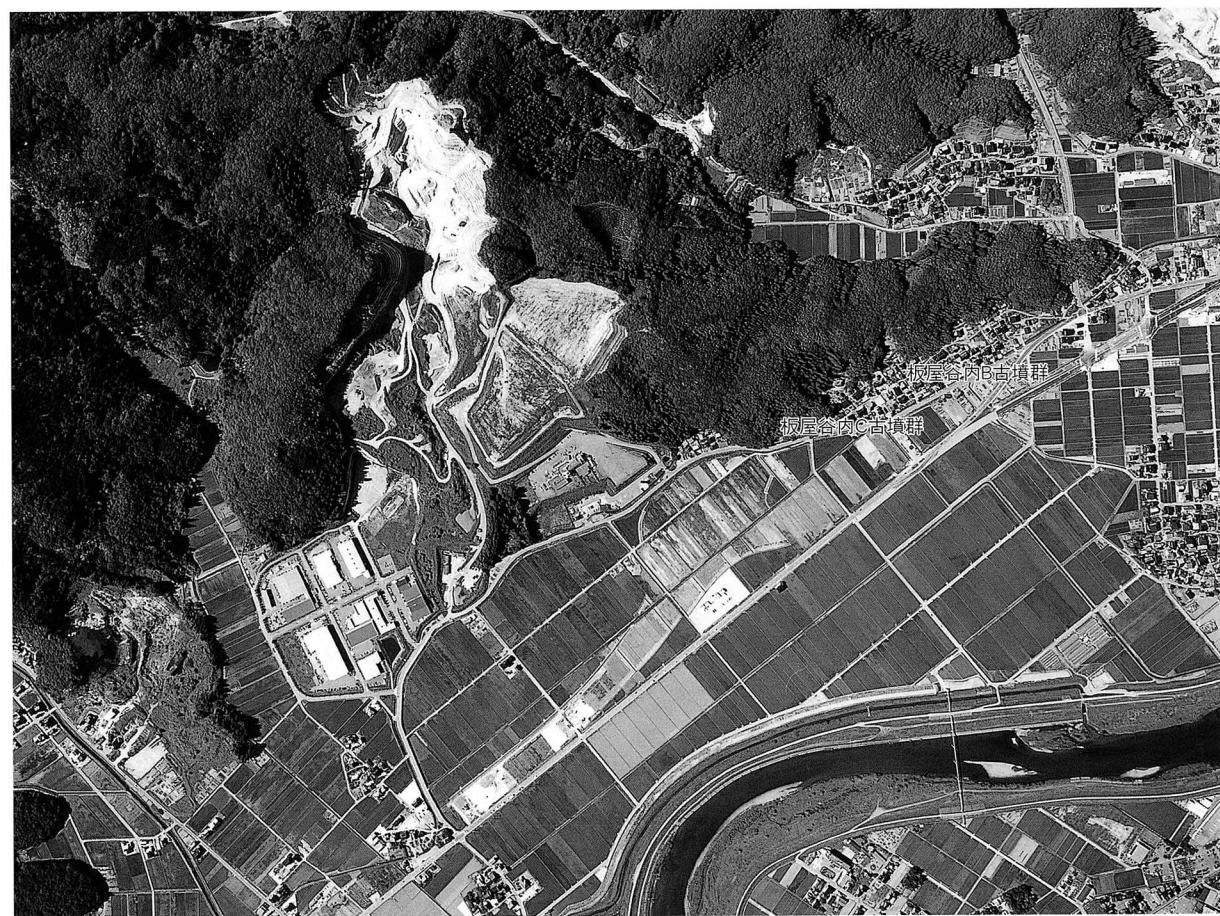
図版3 NE J-19出土遺物



図版4 NEJ-19出土遺物

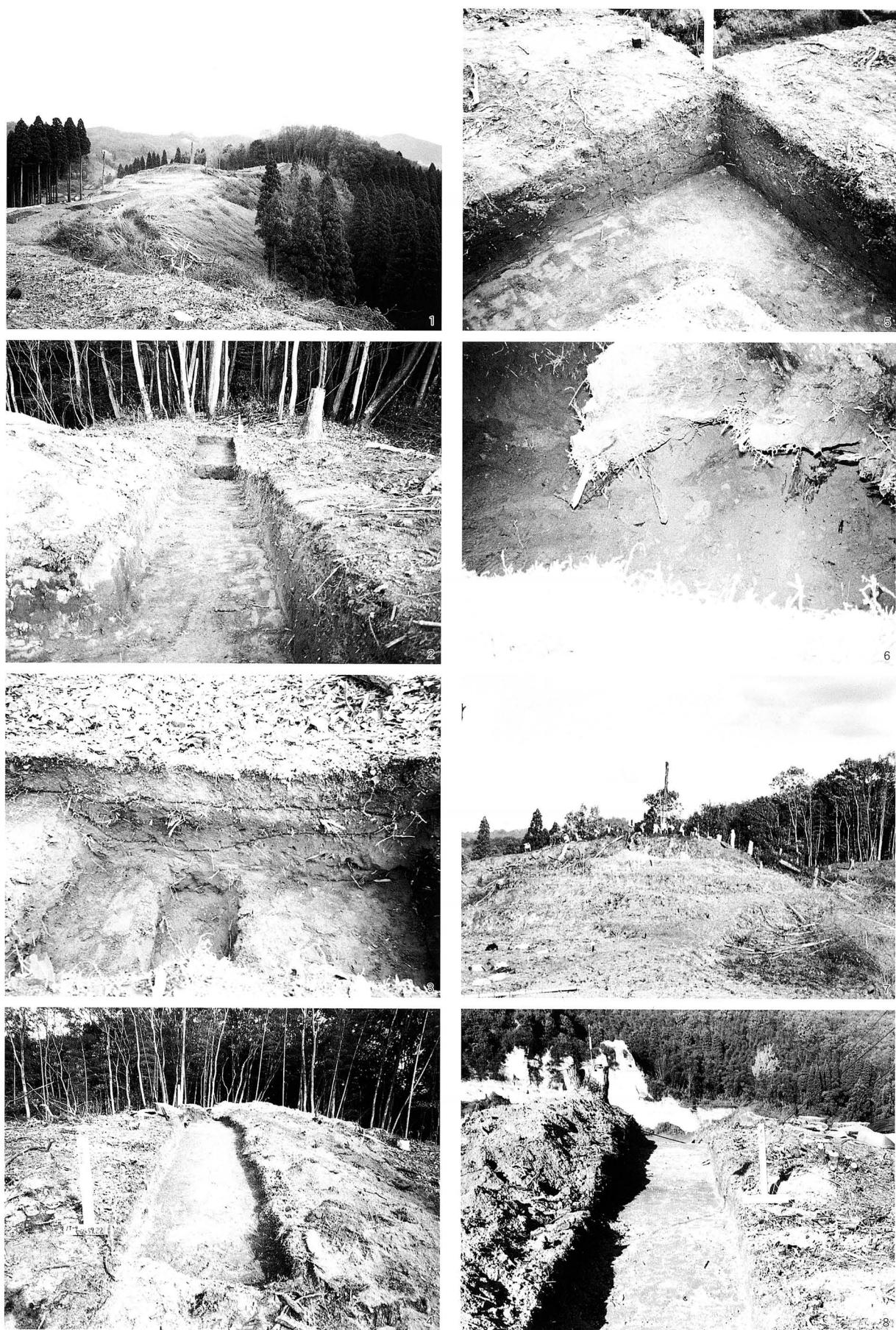


(1953年撮影)

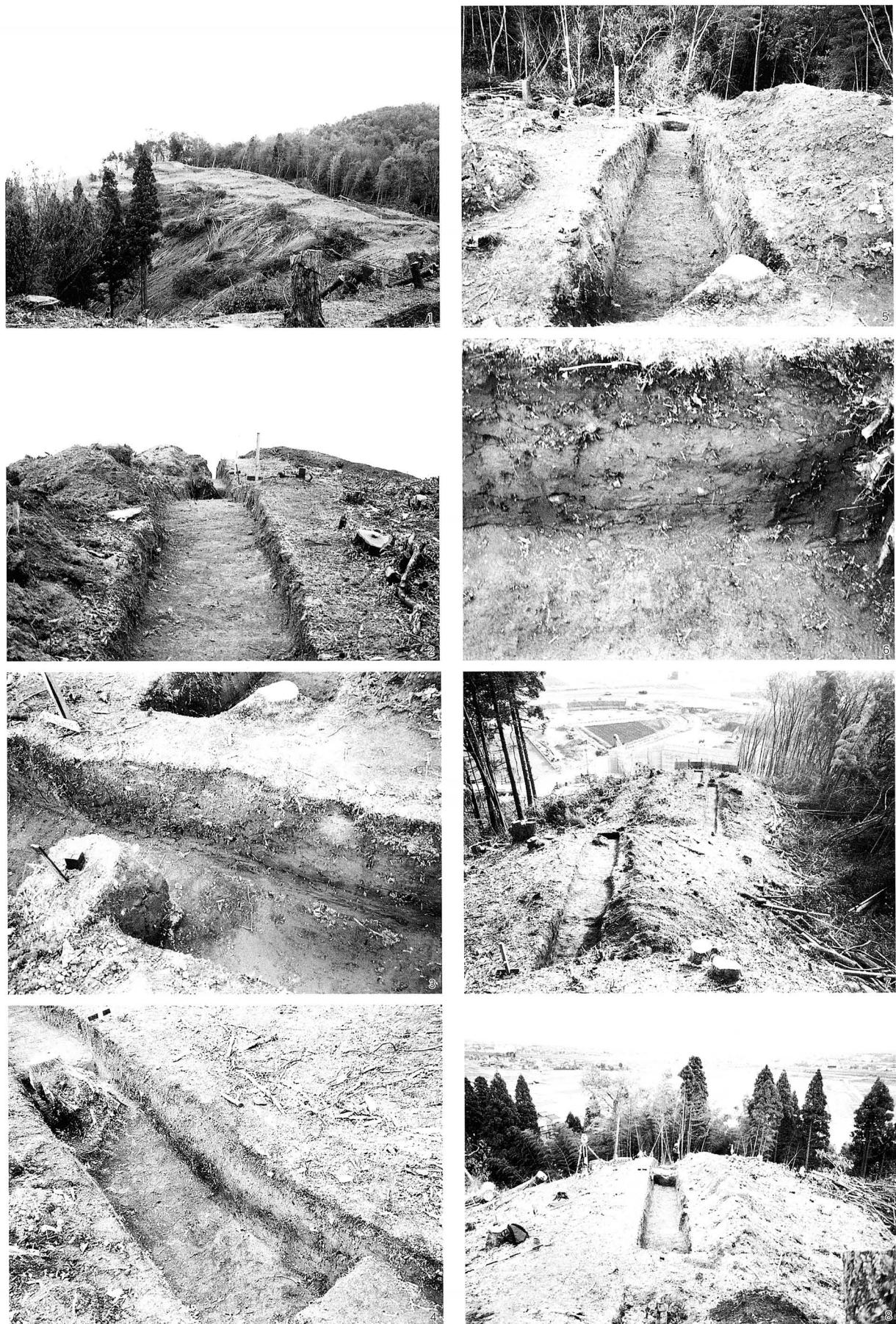


(2000年撮影)

図版5 板屋谷内B・C古墳群航空写真



図版6 板屋谷内B古墳群 1.B古墳群遠景（西から） 2.T1東半 3.T1東半土層 4.T1西半
5.T1・T2交点部土層 6.T2鉄劍出土状況 7.T4調査風景 8.T4



図版7 板屋谷内C古墳群

1.C古墳群遠景（東から） 2.T 7 北半完掘状況 3.T 7 土層 4.T 7 土層

5.T 8 完掘状況 6.T 8 土層 7.T 10・11完掘状況 8.T 12完掘状況



1



2



報告書抄録

ふりがな	のうえつじどうしゃどうかんれんmaiぞうぶんかざいほうぞうちょうさほうこく							
書名	能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告 -NEJ-19(上久津呂中屋遺跡) 板屋谷内B古墳群 板屋谷内C古墳群-							
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	第23集							
編著者名	菅田 薫 野口雅美							
編集機関	財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所							
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL076-442-4229							
発行年月日	西暦2004年3月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
えぬいーじえいじゅうきゅう NE J -19	ひみし 氷見市 かみくづろ 上久津呂	16205	315	36° 49' 27"	136° 56' 37"	20030513 ～ 20031114	1,492 (対象面積 26,555)	能越自動車道 建設に伴う 調査
いたややちびー 板屋谷内B こふんぐん 古墳群	たかおかし 高岡市 いかり 五十里	16202	076	36° 46' 28"	136° 58' 57"	20031117 ～ 20031202	279 (対象面積 13,200)	能越自動車道 建設に伴う 調査
いたややちしー 板屋谷内C こふんぐん 古墳群	たかおかし 高岡市 いかり 五十里	16202	075	36° 46' 24"	136° 58' 48"	20031117 ～ 20031202		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
NE J -19	集落	縄文	谷	縄文土器・打製石斧・磨製石斧・石錘・敲石・凹石・円盤状土製品・土器片錘・有孔土玉・骨	かみくづろなかやいせき 上久津呂中屋遺跡とする。
	集落	古代	溝・穴・土坑	土師器・須恵器	
	集落	中世	溝・穴・土坑	中世土師器・珠洲・青白磁・青磁・白磁・唐津	
板屋谷内B 古墳群	古墳	古墳	円墳・穴・溝	縄文土器・古墳時代須恵器・鉄剣	
板屋谷内C 古墳群	古墳	古墳	円墳・穴・溝	銅鏡・珠洲	新たな円墳1基を確認した。

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第23集
能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告

—N E J - 19 (上久津呂中屋遺跡) 板屋谷内 B 古墳群 板屋谷内 C 古墳群—

編集・発行 財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
〒930-0887 富山市五福4384番1号
TEL 076-442-4229

発行日 2004(平成16)年3月29日
印 刷 (株)富山フォーム印刷